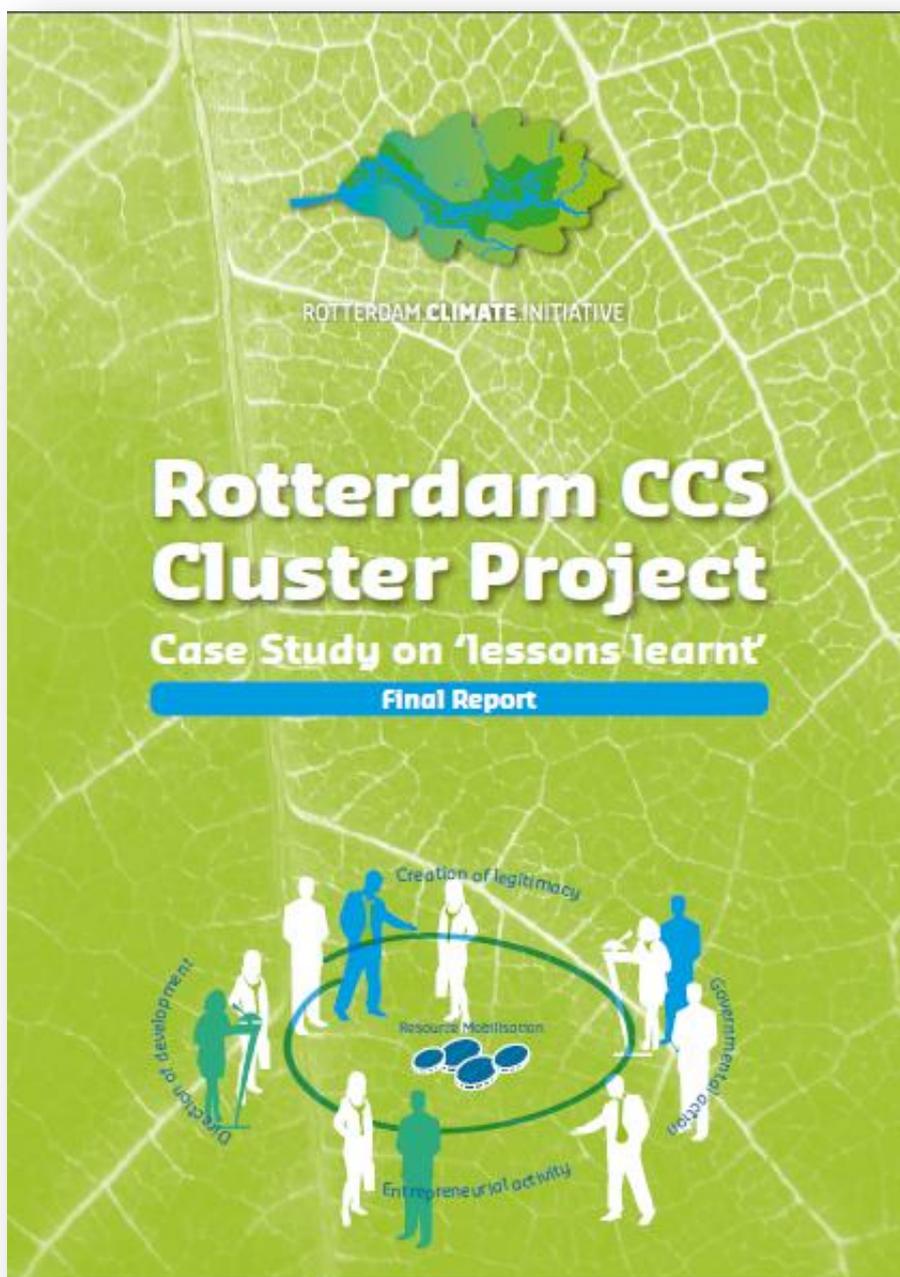


ロッテルダムCCSクラスタープロジェクト (Rotterdam CCS Cluster Project)

ロッテルダム気候イニシアティブ

教訓」に関するケーススタディ
最終報告書



「ロッテルダムCCSクラスタープロジェクト」は、利用者の便宜のために“Rotterdam CCS Cluster Project”のエグゼクティブサマリーを英語から日本語に翻訳したものです。グローバルCCSインスティテュートは日本語版のいかなる内容についてもその正確性、信頼性又は完全性について保証しません。

エグゼクティブサマリー

ロッテルダム気候イニシアティブ(RCI: Rotterdam Climate Initiative)は、ロッテルダム地域においてCO₂回収貯留(CCS)を実現するため、懸命に取り組んでいる。ロッテルダムにおけるCCS活動は2006年に始まり、現在までに18を超える大手企業が協力し、CO₂回収プロジェクト及びCCSインフラネットワークに関する、実行可能性レベルでの工学調査を実施してきた。このようなロッテルダムの手法は有効だと考えられる。国内外において、人々はこのロッテルダムの手法に関心を示しており、CCSの開発及び展開の促進においてRCIはなぜここまで成功したか注目している。

2010年、RCIは4年間のロッテルダムCCSプロジェクトの実践的経験を中心にケーススタディを実施することを決定した。グローバルCCSインスティテュート(以下、「当インスティテュート」という。)はRCIの結果に関心を寄せており、このケーススタディを財政的に支援することを決定した。RCI及び当インスティテュートは主要な調査課題として、「ロッテルダムCCSプロジェクトから何を学ぶことができるか」という質問を設定した。そして、さらに次の二つの目的を設定した。①世界中の新たなCCSプロジェクトを支援する上で有用な教訓を発見する、②ロッテルダムCCSプロジェクトそのものを改善する。

ケーススタディ自体からも、多くの成果物及びプロセスを得ることができた。成果物とは、特定の活動に関する(暫定)報告書、及び教訓に関する発表である。プロセスとは、例えば、プロジェクトチームが世界の幾つかの地域(英国、豪州、韓国及び日本)において実施した、教訓を(双方向で)交換するワークショップである。

本書はこのケーススタディの最終報告書である。以下の四つのテーマを取り扱っている。

1. **理解可能なストーリー展開**—第2章では、ロッテルダムCCS手法に関する出来事の全てを簡潔に要約した。
2. **(新規及びオリジナルの)拡張分析**—第3章では、4者の外部利害関係者による多面的な解析により、読者はロッテルダム手法の長所及び短所をより鮮明に把握できるはずである。我々が選んだ利害関係者の意見は、政治家、政策立案者、起業家、(CCS)ネットワーク事務局のものである。それぞれの意見から、読者はロッテルダムで何が起きたかについての見解及び印象を得ることができる。
3. **新たなCCSプロジェクトの創始者のためのマニュアル**—第4章では、ロッテルダムで学んだ教訓から、プロジェクトを開始するリーダーのためのガイドラインを作成した。ガイドラインは、信頼関係の構築、クラスタープロジェクトの組織化、貯留の利用可能化、コミュニケーション及び支援運動の問題などを扱っている。
4. **ケーススタディの「インとアウト」に関する考察**—第5章では、1年以上に及んだ興味深い作業(労働時間は3,000時間弱)を検討する。この検討では、本ケーススタディの結果やワークショップ及び知識共有への適用において、用いた理論とその応用を扱っている。本章は今後の作業のための提案で締めくくっている。

このケーススタディは本報告書をもって終了するが、本報告書及び場合によってはその継続活動が、全世界のCCSの開発を支援及び改善する一助となることを我々は願っている。本ケーススタディは、ロッテルダムCCSプロジェクトが、ロッテルダムだけでなく、世界のどの場所でも有用な興味深い結論を引き出せる好例であることを証明した。